
こころ、その後

あい仔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ここに、その後

【著者名】

N4156BA

【作者名】

あい仔

【あらすじ】

夏目漱石の「こゝのその後の話」の捏造です

先生の所にたどり着いたのは、もう大分日が傾いた時だった
私が息を切らし、襖を勢いよく開けると、先生は夕暮れを拝み黄昏
ていた

私が弱弱しく先生とつぶやくと先生は「ひへひへひへ」と振り返った

「嗚呼。あなたですか。」

先生は今まで見たことのない安心しきった笑みをされている
まるで、私をまっていたかのように。
手には大量の睡眠薬が握られており、死ぬ準備はとうにできていた

もう一回、私は先生と呼ぶ
そして、ゆっくりと私は先生に近づいた

先生は私の手を握りそうですか。そうですか。とつぶやいた
そして

「向上心のない奴は馬鹿だ」
と、またつぶやいた

「」友人のお言葉ですね

私は言う。先生はこくりと頷いた。

「Kは私より下でなければいけないというハイализムに私は囚われ
ていました。なぜなら、先に憐れみから抜け出したのは私だから。
私がKに手をさし延ばすことによって、私はKより上に立つところが
できた気になっていたのです。なのに、どこまでも、どこまでもK

が妬ましかつた。私と同じ可哀想と呼ばれる存在であるのにいつまでも向上心を捨てないKに苛立ちと恐れを感じていました。そして、そんなKにお嬢さんは惹かれていた。誰よりも私自身が私よりKにお嬢さんが惹かれている理由が分かりました。私は焦りました。分かつてしまつたのですから。Kは初めから可哀想な存在などではなかつたという事実に。だから、私は奪つた。Kを可哀想にするために。私は結局どちらに傍にいてほしかつたのでしょうか。でも、私の暴挙は可哀想な私を滑稽にも一人にしてしまつたのです」

先生はまた、過去を私に語る。

私が望んだことであるのに、心をもやもやと疊らすだけだった。

「先生から聞く限り、ご友人は明治の精神をそつくりそのまま映し出した方なのですね。ご友人は役にたつ人間になりたかったのでしょう。だから、向上心を捨てなかつた。そして、可哀想なふりをして、先生に近づき、先生のエゴイズムの役に立つた。そうまでしても、十分な見返りは返つてこない。だけど、先生は、先生だけは十分に見返りを返していた。だからご友人は感謝の言葉を貴方にだけ残してお亡くなりになつたのでしょうか。」

「私は私が言つてることがよくわからなかつた。
でも、先生は私を懐かしむようにみた。

「そうですか。あのKならそんな闇を抱えていても不思議ではない。あなたはとても私の友人についている。突拍子もないところとか、少し変わつていいところとか。だから、待つていました。これは私の

一人芝居です。Kなら私が死ぬと聞いてどう行動するのか知りたくなつたのです。」

「では、先生。ご友人が死ぬときもし間に合つていたらどんなお言葉をおかけになつていたのですか」

「私はあなた以外に生涯の友をしりません。そう、言つつもりでした」

「ご友人も同じでしよう。」

先生は泣いていた。私も泣いていた

私が何故、ここまで先生に惹かれるかは分からぬ

でも、私は先生の生涯の友でいたいと、そう思つた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4156ba/>

こころ、その後

2012年1月10日23時49分発行